

令和2年6月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

市長が久慈市の新型コロナウイルス感染症感染対策や支援策、災害時要援護者名簿の共有等に関する協定書調印式について報道機関にお知らせしました。

□ 記者との質疑応答

記者：特別定額給付金の支払者数の割合が96%と高い。状況について伺いたい。

市：生活が困っている方が多い状況であり、できるだけ早く振込をするように努めた。

担当課と担当課以外の応援職員も集め、土日の受付も積極的に行った結果と考えている。市民の期待に応えられたと感じている。

記者：中小企業者緊急支援臨時交付金による支援が進んでいるようだが、次はどのような分野への支援を考えているか。

市：持続化給付金、雇用調整助成金といった国の支援メニューを使っていただき、補助制度を使っても、なお苦しい事業者、分野に支援したい。

国の第2次補正予算が6月12日に成立と伺っている。地方公共団体に配分となる2兆円の特別交付金が組み込まれているようだが、これをどのように活用するか、実態を調査して、経営が苦しい事業者への対策を考えたい。

記者：2兆円の特別交付金の自治体への配分についての情報はあるか。

市：6月補正では文部科学省の小中学校へのタブレット購入、LAN整備に多く予算が配分されるようである。

記者：今後の観光業のPRはどのように考えているか。

市：観光には来ていただきたい反面、感染も心配される。現況では近場の方に来ていただければと思う。観光でキャンペーンを行うことはまだできない。状況を見ながら、徐々に進めたい。

記者：東北の中で観光をできるように、東北6県の知事が共同でメッセージを流すこともできると思う。

市：それは県に話をしたい。全く、観光客が来ないのも困るところである。関東圏からの観光客は感染が心配される。

記者：発熱外来の設置の見通し、進捗状況を教えてください。

市：久慈医療圏に県が発熱外来を設置したいと話があり、久慈保健所を中心にして、医師会に現在、開設に向けて調整をいただいている。

できるだけ早い時期に開設いただけるようお願いをした。

記者：医師が少ないことが地域課題としてあるが、発熱外来の対応は可能か。

市：管内4市町村で対応することになっている。

記者：JRバス東北が運行する公共交通維持に向けた要望はどのようなものか。

市：JRバス東北が運行する新幹線との連絡バスが、乗車率が低く、採算が採れないため、2便減となった。ビジネスや観光の面で大きな影響があるものであり、現状を訴えて、県と相談したい。沿線の九戸村、二戸市と連携して動いていきたい。

記者：コロナウイルスの関連になるが、リモートで仕事ができる環境が進んでいる。また、移住の人数も増えているそうだ。岩手県はコロナの感染者がなく、移住先の優先順位があがると思われる。移住対策を考えているか。リモートで仕事ができる環境づくりとして、ネット環境があるワークスペースの整備の必要があると思う。

市：現在は移住者向けの相談会が開催できないでいる。移住希望者からの問い合わせもない状況。全国誌の雑誌に久慈市の海に近い物件を特集で取り上げてもらう予定。

岩手県の感染者数ゼロが続き、岩手県は移住や子育てしやすいまちとしてアピールできると考えている。コロナが一段落ついたら、住みやすいまちをPRしたい。

記者：海女の実演の予定は。

市：協議中と伺っている。